

ブロッコリー栽培暦

肥料・農薬・栽培指導なら
 万来屋物産株式会社
 TEL 0942-44-6101
 携帯 080-1539-2270 担当 草場

作方	収穫期	播種時期・定植時期・収穫期												備考			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
初夏出	5月下旬～6月中旬		●	×			■										ピクセル
早出	9月中旬～11月初旬								●	×		■					ピクセル
秋出	11月初旬～12月中旬									●	×		■				緑帝
冬出	12月初旬～2月初旬									●	×			■			沢ゆたか
晩出(1)	2月中旬～3月中旬		■								●	×					エンデバー
晩出(2)	3月中旬～4月下旬			■								●	×				晩緑95

判例: ● 播種 × 定植 ■ 収穫

- 土作り
 - 10a当たり、堆肥を1,000kg もしくは、自然の輪を200kg施し、深耕しましょう。
 - 土壌pHは、6.0～6.5が一番良く、5.5以下になると生育が悪くなります。
 - ホウ素やモリブデン欠乏を起こしやすいので、土壌pH調整と同時にハイグリーンやホスピタなどの微量元素資材を施用してください。
 - 悪いと根痛みや、根腐れの原因になりますので、排水性を良くしましょう。
 - 有機物の多い適湿地を好みますので、乾燥しやすい圃場は、有機物を投入しましょう。有機物の投入が難しい場合は、プロミネン(粒)を75～150kg投入しましょう。

堆肥1,000kg/10a 又は、自然の輪200kg/10a	バイタリー施用量例 (10a当たり)			
	pH 5.5前後	pH 6.0前後	pH 6.5前後	pH7.0前後
石灰窒素を使用する場合	100～120kg	60～80kg	40～60kg	40kg
石灰窒素を使用しない場合	100～160kg	80～140kg	60～120kg	60kg

☆土壌の状態がわからない場合は、土壌検査を行いましょう!

作方	目標収量 (t/10a)	基準施肥量(kg/10a)			元肥施肥量(kg/10a)			追肥1施肥量(kg/10a)			追肥2施肥量(kg/10a)			追肥3施肥量(kg/10a)		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K
初夏出	1.1	21	7	31	16	7	27	5	0	4	0	0	0	0	0	0
早出	0.9	17	6	25	13	6	22	4	0	3	0	0	0	0	0	0
秋出	1.1	21	7	31	15	7	25	3	0	3	3	0	3	0	0	0
冬出	1.1	21	7	31	15	7	25	3	0	3	3	0	3	0	0	0
晩出(1)	1.1	21	7	31	14	6	22	3	0	4	3	0	2	3	0	2
晩出(2)	1.1	21	7	31	14	6	22	3	0	4	3	0	2	3	0	2

作方	普通型									
	元肥	袋数	追肥1	袋数	追肥2	袋数	追肥3	袋数		
初夏出	野菜専用423	5～6	追肥716 過燐硝安 ニトロパワー	1.5～2	追肥716 過燐硝安 ニトロパワー	1～1.5	追肥716 過燐硝安 ニトロパワー	1～1.5		
早出	野菜専用423	4～5		1～2						
秋出	野菜専用423	5～6		1～2					1～1.5	1～1.5
冬出										
晩出(1)										
晩出(2)										

- 追肥1は、定植後15～20日に、追肥2は、出蕾初期に施用してください。
- 晩出栽培では、追肥1を定植後15～20日で、追肥2を定植30～40日後、追肥3を出蕾初期に行ってください。
- 晩出栽培では、茎葉も大きくなり、葉蕾も肥大する時期に肥料が不足すると花蕾が充実しないので追肥回数を増やしてください。
- 4～5月や8～9月は乾燥するので、かん水を兼ねて追肥の一部を液肥で施用しても構いません。

作方	元肥省力型	
	元肥	袋数
初夏出	マイティコート111	5～6
早出		
秋出	マイティコート2598	6～6.5
冬出		
晩出(1)	マイティコート111	5～6
晩出(2)		

作方	追肥時期1	追肥時期2	追肥時期3
初夏出・早出	定植後15～20日	—	—
秋出・冬出	定植後15～20日	出蕾初期	—
晩出(1)・晩出(2)	定植後15～20日	定植後30～40日	出蕾初期

追肥肥料名	硝安率	使用時期
ニトロパワー503	高	厳寒期
過燐硝安マジヨリカブルー	中	
追肥716	低	

- 圃場状況により、肥料の種類や施用量を加減してください。 ※追肥は、播種時期や生育を考慮して行ってください。
- 基本的には追肥が不要ですが、高温、過乾燥、長雨により追肥が必要になる場合があります。

農薬名	効果雑草	使用量(10a)	使用時期	備考
pasta液剤	1年生雑草	300～500ml	雑草生育期(播種前または、畦間処理)	
ラッソー乳剤	1年生雑草	150～200ml	定植後(但し、収穫60日前まで)	
アグロマックス水和剤	1年生雑草(キク・カヤ科を除く)	200～300g	定植後雑草発生前(但し、定植14日後まで)	

※ラベルをよく読み、使用時期、使用回数、使用方法を確認して使用しましょう!

根こぶ病対策

アブラナ科野菜やキャベツを連作していると、根こぶ病が発生するようになります。根こぶ病が出ないように、また、出ってしまった場合の対処法

物理的予防方法	使用資材	予防原理
pHを上げる	バイタリー	土壌pHを測り、バイタリーを投入しpHを上げましょう。pH7.3以上になると、発生を抑えることができます。
有機物の投入	プロミネン(粒)	大豆粕菌体肥料を投入すると、有機物である大豆粕と根粒菌の働きで、発生を抑えることができます。
有効菌体の投入・増殖	アグリ20	アグリ20を苗、土壌に散布することによって、土壌の放線菌を増やし、根こぶ病の発生を抑えてくれます。

薬剤防除	使用量	使用時期	使用方法
ランマンフロアブル	500倍液	移植前日～当日	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～7L)当り2L
フィールドキーパー水和剤	200倍液	播種時	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～5L)当り2L
ネビジン顆粒水和剤	200g/100L	定植前	全面散布後土壌混和
オラクル粉剤	20～30kg	定植前	全面散布後土壌混和

